

シートシャッターの小松電機

拡販狙いデモ車製作

実演で特徴PR

生産増強、全国に販売網も

超音波を利用した自動開閉式のシートシャッターを製造している小松電機産業(鳥根県八雲村、社長小松昭夫氏)は、見本市会場や購入希望者のところでシートシャッターの実演ができるデモンストレーション車を製作した。FMS(フレキシブル生産システム)による無人板金工場が完成、生産能力が倍増したことから積極的な拡販を狙う全国的な販売ネットワーク作りを進める。

デモ車は大型トラックにシートシャッターの「門番」を積載、タログでは商品の特徴を説明するのに限界があるため、購入希望者を実際に自分で開閉してもらって、商品特性を知ってもらおうという作戦。

「門番」は工場や倉庫などの出入り口に設置、車が近づくと超音波センサーが働き、ピニール製のシャッターが自動的に瞬時に開閉する装置。車から降りず開閉でき、開閉に要する時間が短くて済むため、急速に需要が増えている。需要増に対応して、このほど鳥根県では初めてのコンピュータ制御によるFMS化無人板金工場を建設した。新工場は材料の供給から切断、プレス、穴開け加工、製品の仕分けまでを一貫して無人で行う。これにより、生産能力は従来の年間二千台から倍以上に増えた。

これを機にシートシャッターの応用製品開発と、全国的な販売ネットワーク作りにも取り組む計画で、同社を中心とする異業種六社で、協同組合テクノくまびき(理事長、小松昭夫氏)を既に設立している。



小松電機産業が作った自動シャッターのデモ車

瞬間に開閉する装置。車から降りず開閉でき、